

彩の歳時記

平成三十年 五月

きらめく季節に
たれがあの帆を歌ったか
つかの間の僕に
過ぎてゆく時よ

後略
寺山修二「われに五月を」
『五月の詩・序詞』

「三月の風と四月の雨が五月の花が咲かせる」は英国の諺。日本では「二月の雪、三月の風、四月の雨が美しい五月をつくる」と言い、英国と良く似た気候ならではの言葉がある。この言葉は気候だけではなく「悪いことの後に良いことがある」という中国の「人間万事塞翁が馬」の意味にも解釈されることもあるようです。「風薫る」と表現される五月の風(漢語「薰風」の和語化したもの)は新緑の香りを運ぶことの見立て。爽やかな色合に満ちた季節を街に出て、目で肌で感じたいものです。



五月の暦

五月・早月・臯月。臯は「気が澄み渡る」の意。他に雨月、麦秋、鶉月。

一日 **メーデー MayDay**。1886年のこの日、米国シカゴの労働者が「一日・八時間労働」を

目標に掲げ、ストライキをしたことが始まり、三年後のこの日にパリに世界中の労働者の代表が集まり労働者の日に。日本では1920年に初めて上野公園で行われた。

二日 **八十八夜**。立春から八十八日目「八十八夜の別れ霜」等と言われ、遅霜の時期。唄で知られる一番茶摘みの頃でもある。農耕の本格的始まりの目安とされた。

三日 **憲法記念日**。昭和二十二年『日本国憲法』が大日本帝国憲法に替り施行された日。

四日 **みどりの日**「国民の休日」自然に親しむとともにその恩恵に感謝し豊かな心をはぐくむ。

四日

修司忌

歌人、劇作家、演劇実験室「天井桟敷」主宰。1960年代から70年代、時代



を挑発し続けた「言葉の錬金術師」異端のマルチクリエーター寺山修司(1935～1983)忌日。評論集「書を捨てよ、町へ出よう」は、書名も名言としても有名。生地青森県三沢に文学館。脚本家、山田太一氏とは早稲田の同級。青森大学で修司忌を開催。処女詩集『われに五月を』。マッチ擦(する)つかのまの海に霧ふかし身捨つるほどの祖国ありや

五日

こどもの日 1948年(昭和23年)に制定された国民の祝日。

「端午の節句」。中国を起源とする五節供の一。端午とは月の端(はじめ)の午(うま)の日の事。気候も良くなり、疫病が流行する時期、よもぎや菖蒲を薬草として煎じ飲む。疫病を防ぐ「鬼神」「鐘馗(しょうき)」の絵を貼る習慣が菖蒲湯や五月人形の由来。「鯉のぼり」は



日本独自の行事で武家社会以降、初節句に男子の立身出世を願う「鯉の滝登り」に因む。



五日

立夏【二十四節気】春分と夏至の中間にあたり、夏が立つ(＝夏が来るの意)日。

人声のしみる立夏の暑さかな 金子兜太【1919～2018】

五月の祭「山王祭」と「神田祭」の二つは「天下祭」で「江戸三大祭」、残る一つは

「深川八幡祭」と「三社祭」のどちらを入れるかは意見がわかれている。

神田祭 [14・15日] 神田明神の祭。「明神」は「名神」が転化。今年は何数年で陰祭。

三社祭 [18日～20日] 浅草神社(旧名・三社大権現社)の氏子四十四ヶ町の祭礼。

十三日【第二日曜日】母の日 母の日の母を泣かしてしまひけり 黛まどか【1962～】『B面の夏』



二十一日 小満【二十四節気】万物の成長する気が次第に長じて天地に満ち始める。

五月の歌

五月のバラ 詞 なかにし礼【1938～】 曲 川口真【1937～】

1970年にブレンダ・リー、1972年に鹿内孝、尾崎紀世彦、菅原洋一、クラシエラ・スサーナ、布施明、秋山雅史等がカバー、スタンダード

ナンバーとして人気が高い。五月といえは『バラの季節』、東京では、旧古河庭園が有名。大正時代に造られた洋館と洋風庭園のバラが美しく映え、一味違ったバラの美しさを楽しめる。他に神代植物園・山下公園など。長崎ハウステンボスでは、東洋一のバラの祭典を開催。

忘れなくて忘れなくて
時は流れ過ぎてても
むせび泣いてむせび泣いて

別れる君と僕のために(きよなら)

五月この僕が帰るまばゆい五月
紅いバラは思い出のバラは

君の庭に咲くだろうか(きよなら)

後略

